平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本　禎久			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	消防の任務を遂行するため、必要不可欠となる知識を修得するため、計画的に職員研修を実施し、人材育成に取り組むこととする。 退職者の増加を勘案した、体制強化を継続的に進めていく必要がある。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	消防力維持のため、計画的に職員研修を実施していく必要がある。
②①に基づく取組み結果	今後数年間における消防職員の退職者増加を勘案しつつ、研修派遣者を選考し、人材育成に取り組めた。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防吏員	意図（対象をどうするのか）	複雑多様化する消防業務に対応するため、高度な専門的知識や技術を修得する。
②事務事業の概要	消防職員として業務遂行上必要な専門知識及び技能を習得するため、消防大学校等の各種研修所に派遣する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	災害件数の増加、複雑多様化する災害への対応や高度な救急処置が要求され、専門的な知識、技術を持つ職員の養成により安心して暮らせる消防体制が望まれている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	消防職員20人を研修派遣し、知識と技能の向上を図った。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	派遣者数／派遣計画者数	100	100	95	%	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		4,213	4,603	金額（千円）	内容	3,963
	国支出金（千円）			4,072	消防学校等負担金	
	県支出金（千円）			118	技能講習等負担金	
	市債その他（千円）			397	旅費	
	一般財源（千円）	4,213	4,603	15	報償費	3,963

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	災害の増加及び複雑多様化に対応するため、継続的に知識及び技術の修得が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	専門的な知識や技術は、外部機関による取得以外に方法はなく、救急救助体制の確立には必要不可欠である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H28からの繰越
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成29年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	消防車両更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本　禎久			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ的確な活動が出来る車両を更新整備する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速且つ、的確な活動ができる車両を更新整備する。
②①に基づく取組み結果	検討会を開催し、現場の意見を取り入れながら、本市に適した車両及び資機材を決定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部及び消防署の管理する車両	意図（対象をどうするのか）	車両更新計画に基づき、車両を更新する。
②事務事業の概要	消防活動を維持するために必要な、消防用自動車及び車両積載品を更新整備する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	複雑多様化する災害が増えていることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	高規格救急自動車を購入した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	車両更新率	100	100	100	%	車両更新計画
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		46,630	38,375	金額（千円）	内容	94,530
	国支出金（千円）	13,508	13,109	37,584	備品購入費	23,929
	県支出金（千円）			750	手数料（AVM移設他）	
	市債その他（千円）	29,100	21,600	9	保険料（自賠責保険）	62,000
	一般財源（千円）	4,022	3,666	33	公課費（重量税）	8,601

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	鎌ケ谷市消防用自動車更新計画に基づき更新しているが、消防力の整備指針改正等を踏まえ、本市の車両台数、更新計画を継続的に検討する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民の安全安心のため消防用自動車の更新は、継続していかなければならない。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	消防車両の更新。	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	中央消防署の高規格救急自動車を更新した。	39,443	39,443	当初	39,443	38,375	H28からの繰越 0
③達成状況	完了			H28⇒29繰越	0		現年分 38,375
④未完了・非着手の理由				補正	0		
				流用・充当	0		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）			0		

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	消防本部庁舎建替事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本　禎久			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	近隣家屋の事後調査は完了しているが、対象家屋の住民に物件補償として金銭による補償をしなければならない。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	事業が全て完了したため、30年度に取組む内容等なし。
②①に基づく取組み結果	近隣家屋の事後調査及び対象家屋の住民に対する物件補償が完了し、事業全て完了に至った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部庁舎	意図（対象をどうするのか）	消防本部庁舎の建替え
②事務事業の概要	耐震性能に優れた消防本部庁舎に建替えることにより、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	災害対応の中枢を担う消防本部庁舎の建替えを行うことにより、震災等の災害時において確実な対応が可能となり、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	平成29年12月に全ての物件補償が完了した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	物件補償数	0	3	6	件	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	125,419	1,324	金額（千円）	内容	0
国支出金（千円）			1,324	補償補填及び賠償金	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）	105,600				
一般財源（千円）	19,819	1,324			

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	近隣家屋の事後調査及び対象家屋の住民に対する物件補償が全て完了した。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	1終了
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	建替事業及び近隣家屋への物件補償が全て完了したため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	建替え工事に伴う物件補償を完了する。	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	対象家屋への物件補償が全て完了した。	1,654	1,654	当初	0	1,324	H28からの繰越 1,324
③達成状況	完了			H28⇒29繰越	1,654		
④未完了・非着手の理由				補正	0		現年分 0
				流用・充当	0		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）			0		

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	中央消防署改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本　禎久			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	平成29年度開始事業のため評価なし	③平成30年度に取組む改革・改善内容	実施設計に基づき、老朽化した中央消防署外壁等の改修工事を実施する。
②①に基づく取組み結果	取組みなし		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	中央消防署庁舎	意図（対象をどうするのか）	外壁等の改修
②事務事業の概要	竣工から48年経過（昭和45年竣工）した中央消防署の外壁等を改修することにより、建物の長寿命化を図るとともに、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	災害対応の中枢を担う中央消防署の改修を行うことにより、災害活動拠点としての機能を確保し、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	中央消防署外壁改修工事の実施設計が完了した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	実施設計完了率	0	0	100	%	業務取得
ii						
iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	0	3,340			32,400
国支出金（千円）			3,042	実施設計委託	
県支出金（千円）			298	外壁アスベスト調査委託	
市債その他（千円）					24,300
一般財源（千円）	0	3,340			8,100

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	改修工事に伴い隣地住民への影響及び災害出場に支障が生じないよう考慮する必要がある。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	消防庁舎は災害活動拠点としての機能を維持していくことが必要不可欠であるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	外壁改修工事に関わる実施設計を完了する。
②計画に対する事業実績	外壁改修工事に関わる実施設計が完了した。
③達成状況	完了
④未完了・非着手の理由	

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
4,586	3,886	当初	4,586	3,340	H28からの繰越	0
		H28⇒29繰越			現年分	3,340
		補正				
		流用・充当	−700			
平成30年度への繰越額（単位；千円）			0			

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	中央消防署非常用自家発電設備更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本　禎久			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	平成29年度開始事業のため評価なし	③平成30年度に取組む改革・改善内容	実施設計に基づき、老朽化した中央消防署非常用自家発電設備の更新工事を実施する。
②①に基づく取組み結果	取組みなし		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	中央消防署非常用自家発電設備	意図（対象をどうするのか）	非常用自家発電設備の更新
②事務事業の概要	設置から37年が経過した中央消防署の非常用自家発電設備を更新することにより、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	災害対応の中枢を担う中央消防署の非常用自家発電設備の更新を行うことにより、災害活動拠点としての機能を確保し、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	中央消防署自家発電設備更新工事の実施設計が完了した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	実施設計完了率	0	0	100	%	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		0	338	金額（千円）	内容	12,600
	国支出金（千円）			338	実施設計委託	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）					11,300
	一般財源（千円）	0	338			1,300

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	災害活動に影響がないよう工事中の消防署の機能維持について調整する必要がある。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	消防庁舎は災害活動拠点としての機能を維持していくことが必要不可欠であるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	自家発電設備更新工事に関わる実施設計を完了する。	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	自家発電設備更新工事に関わる実施設計が完了した。	510	510	当初	510	338	H28からの繰越 0
③達成状況	完了			H28⇒29繰越			現年分 338
④未完了・非着手の理由				補正			
				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）			0		